

# インフォーマル居住地に対する政策の変容

## ——インドネシア、ジョグジャカルタの河川敷から——

平成 26 年 入学  
派遣先国：インドネシア  
水野 久仁香

キーワード：都市，開発，インフォーマル居住地，河川敷

### 対象とする問題の概要

近年の急激な世界人口の増加によって、開発途上国の都市部では、慢性的な住宅不足や住環境の劣悪なスラムの問題が露呈している。2015 年 9 月に国連加盟国は「持続可能な開発目標 (SDGs)」を決定し、開発途上国における都市インフラの整備、公共空間や緑地の提供、住民参加による包摂的な都市計画の実施を課題として掲げている。

本研究が対象とするインドネシアは、世界人口第 4 位を誇り、1998 年の民主化以降、政治的にも安定している。一方、急激な都市人口の増加によって慢性的な土地不足が問題となっている。住宅を獲得できなかった者の中には河川敷に居住する者もいる。河川敷を含む、曖昧な土地の権利関係によって発生したインフォーマル居住地の解決はインドネシア政府にとって重要な課題である。

### 研究目的

河川は本来、治水と洪水軽減のための基礎管理が必須である。それに加え、近年は都市における緑地空間を創出するため、河川の豊かな生態系の保全を求める声が高まっている。そのため政府は都市部の河川敷居住地の強制撤去を試み、それに居住者が反発する事例が後を絶たない。これに対して近年、インドネシアの諸都市では、河川敷の居住者が政府と協力して河川管理・保全と居住問題を両立させようとする動きを始めた。その代表的な事例として、ジョグジャカルタを取り上げる。ジョグジャカルタでは河川敷居住者が市民団体を組織し、自ら河川の清掃活動や違法な居住地の撤去を実施している。同州および市政府も、市民団体の活動との協力体制を築いている。本研究では、一見相反する河川敷の開発と居住地の存続をめぐる相克関係、そして、その相克克服の試みを明らかにする。

### フィールドワークから得られた知見について

このフィールドワークでは、民間企業の建設事業がジョグジャカルタの都市開発にどのような影響を及ぼしているのかを調べることに注力した。近年ジョグジャカルタ市全体で近代アパートやホテルの建設ラッシュが起きている。民間ディベロッパーは、インドネシア庶民の居住地として知られる高密度のカンポンの土地を標的にしており、土地買収を実施している。カンポンの地主が民間ディベロッパーに土地を売却することによって、借家人は一斉にカンボンから追い出される事件が続出している。このような借家人の反発があり、ジョグジャカルタでは活動家が彼らを代弁して民間企業の都市開発を批判している。また、その批判の矛先は、民間活

力と市場活性化を優先する市政府に向いている。フィールドワークでは、チョデ川の河川敷居住地での聞き取り調査をもとに、この民間企業の土地買収と建設問題がチョデ川の河川敷にも及んでいること、それに反発する河川敷居住者が市内の活動家と共に活動していることが明らかになった。この調査では、問題となっている具体的な場所を記録し、地図を作成した。



写真1 河川敷居住地における参与調査の様子

また、東南アジア研究の国際学会 SEASREP の 20 周年記念に出席し、本研究の成果を発表した。学会を通して、東南アジア研究に従事する様々な発表を聞き、自らの研究意義や問題意識を再考することに繋がった。



写真2 国際学会 SEASREP の 20 周年記念の開会式

他にも、カウンターパートの Abdur Rozaki 先生が所属する国立イスラム大学ジョグジャカルタの授業にて講義を実施した。講義内容は、研究対象であるチョデ川の河川敷居住地に対する地方政府の政策の変遷と、戦後日本の住宅政策についてである。多くの学生が身近なチョデ川の問題に関心を抱いており、具体的な問題解決や政策の必要性を感じていることが分かった。また、日本の住宅政策については、現在のインドネシアの住宅問題および福祉政策に問題を感じている学生が多く、日本が戦後の住宅不足をどのように解消することができたのかについて

様々な質問を受けた。私自身はインドネシアの地域研究を専攻としながらも、インドネシアの学生にとっては日本の事例との比較が興味深い内容であることが分かった。



写真3 国立イスラム大学ジョグジャカルタの授業にて記念撮影

### 今後の展開・反省点

今回のフィールドワークでは、河川敷居住者および市民団体の活動内容を調べることに注力した。そのため政府の見解や方針についての十分な資料を集めることができなかった。今後は、資料不足を補うために、地方紙や地方政府が発行している資料を利用する。

また、ジョグジャカルタの事例を、インドネシア全国の事例と重ね合わせながら、相違点や類似点を検証する必要もある。比較の試みは、本研究の目的である河川敷における開発と居住の両立の試みに関して、ジョグジャカルタを取り上げる意義や役割をより明確にすることに繋がると考える。